

回 覧



値小だより

島から日本一楽しい学校を
～子どもが未来に誇れる学校～

平成28年9月1日 第12号

校長 酒井 元 治

さようなら、夏休み！いらっしゃい2学期！

子どもたちが指折り待っていた夏休みも終わり、保護者のみなさんが指折り待っていた2学期が始まりました。夏休み中の子どもたちのお世話、課題へのご協力、安全管理、等々ありがとうございました。おかげさまで、大きなけがもなく始業式を迎えることができました。お子さんといい思い出はつくれましたか？やかましく親子げんかすることもいい思い出なのかもしれません。娘・息子が家を離れた私はつくづくそう思います。本当にいろいろな意味で子育てを楽しむことができるのは小学校、あるいは中学校ぐらいまでかと…。子どもが家から離れてしまうと寂しいものです。

夢を持とう！堂々と自分を表現しよう！

さて、2学期始業式での私の講話。

今年の夏は何と言っても「リオデジャネイロ・オリンピック」でしょうか。本県出身の内村選手を筆頭に、日本人選手の輝かしい姿を見ることができました。

その中で今回取り上げたのは、卓球女子の伊藤美誠選手です。年齢が子どもたちに近いこと、堂々、はつらつとしたプレーや試合後のコメントが印象的だったことが伊藤選手を取り上げた理由です。（他の有名な選手、本県出身の選手は担任や他の職員からの話もあるかと思われるということも理由です。）

さて、この伊藤選手、卓球選手だったお母さんのコーチを3歳の頃から受けて現在に至っています。幼児期、「1000本ノーミス、ドライブでお母さんに打ち返す」、999本成功して1000本目に失敗しても最初から。振り上



げたラケットが当たるおでこは腫れ上がり、胸には血がにじんでも、大好きな卓球を自分からやめるとは言わなかったそうです。1日6時間から7時間の練習をこなし着実に力をつけていくのですが、それでも順風満帆ではなかったようです。

そして、小学校6年生のとき前大会ロンドン・オリンピックを実際に見に行つて、「自分もオリンピックに出たい」という思いを強くします。

下は伊藤選手が小学校6年生のときに書いた作文です。

オリンピックに出て優勝したい

伊藤 美誠

～前略～

私は、ロンドン・オリンピックを目の前で見ました。会場もすごい盛り上がっていました。選手をみんな緊張させていてみんな一生懸命頑張っていました。卓球では日本女子が銀メダルを獲得しました。それを見て、私は2016年には出場して、2020年には、団体優勝、個人戦で優勝したいと思います。

（原文通り）

伊藤選手は他の選手同様、幼い頃から大好きでやり始め、夢を持ってここまでできた選手です。



私の講話では、もう一人選手を紹介しました。今から「リオデジャネイロ・パラリンピック」で活躍するだろう、車いすバスケットボールの宮島徹也選手です。宮島選手を取り上げた理由は、オリンピック同様パラリンピックにも目を向け、様々な人の頑張る姿を見てほしいこと、そして、宮島選手が自分の夢によって自分を取り戻した、あるいは何もなかった頃より強くなったことを紹介したかったからです。

宮島選手は小学校4年の頃からバスケットボールを始め、中学校では県選抜チームの選考会に出るほどの腕前でした。中2のとき、この選考会で左足の靭帯を断裂、手術の失敗により左足を太ももから切断することになりました。一時は全ての希望を失い、周囲に

当たり散らし、友だちとも会えない生活が続きます。そんな中、宮島選手を救ったのは「夢」でした。宮島選手は、北京オリンピックから3大会連続でパラリンピックに出場しています。

以下は本人の言葉です。（裏に続く。）

足がなくなったとき、人生が終わったような気持ちになりました。だけど、今、車いすバスケットボール選手としてパラリンピックに出場し、普通の人生ではありえないような出会いがあり、応援してもらっている。足を切断したからこそ、得られた経験もたくさんあります。あのときケガをしていなかったら、手術がうまくいっていたら、どうなっていたのだろうと考えることもなく、毎日を一生懸命生きてきた。その人生はとても充実しています。それは、僕に夢があったから。やっぱり夢の力は大きい。「飛行機に乗りたい」とか、どんなに小さくていいから、なりたい自分をイメージするだけで、ワクワクできる。それだけで自分が変わるんです。

僕のように途中で夢をあきらめるようなことになっても、また新しい夢を手に入ればいい。夢を見つけたら、そこへ向かうための小さな目標を立てて、それをクリアするためにコツコツコツコツ頑張る。困ったときには誰かが助けてくれるし、友だちが支えてもくれる。そういう人たちへの感謝の気持ちがまた力になるし、自分は一人じゃあないと思えるだけで、毎日が本当に楽しくなっています。

小学館「12歳の約束～そして世界の頂点へ～」より

私が伝えたいことは、小さなことでもいいから夢や目標を持つこと、そして、オリンピック選手みたいに自分の得意なことからでいいから堂々と人前で表現できることです。この、人前で表現するということは、小値賀の子どもたちがけっこう苦手なこと。自分を表現できるかどうかで、人生の中でのチャンスが違ってきます。尻込みしていたのでは、チャンスも遠ざかってしまう。人前で堂々と自分を表現できる、自分の考えを言うことができる子に育てたいと思います。

そこで、こんなことを考えています。

堂々リクエスト選手権

- 1 それぞれの子どもたちの得意なこと（歌、コント、小話、暗唱等）を、希望者から担任に申し出る。
- 2 出し物は担任→校長（あるいは教頭）の流れでエントリーできるかどうか、さらに練習や工夫が必要かを判断する。
- 3 OKを受けた子はエントリーカードに氏名と出し物のアピールを記入し、児

童玄関前のボードに掲示する。（エントリー&練習期間 9月～10月）

- 4 保護者のみなさんや地域のみなさんが来校されたときにエントリーカードから、実際に見てみたい出し物をリクエストする。（リクエスト期間は11月～2月。リクエストは休み時間に限ります。）
- 5 リクエスト回数に応じて、1～3位を表彰し、金・銀・銅のメダルを授与する。

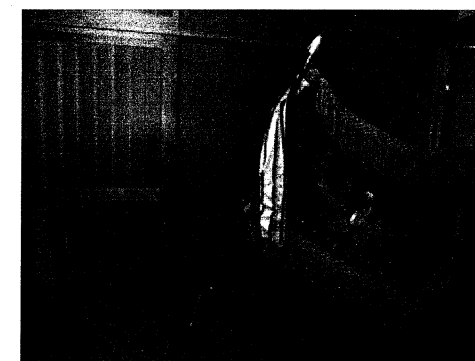


この意欲づけのために、私の講話の最後は小話を私自身がやって見せました。経過はこの「値小だより」でもお伝えします。どんな出し物がエントリーされるかどうぞ期待！

オリンピック選手、パラリンピック選手に負けるな小値賀っ子。めざせメダリスト！

ジュニアの部優勝！

野球チーム「小値賀パワフルズ」が県北軟式野球連盟学童野球スーパージュニア大会でみごと優勝しました。この大会は4年生以下(女子は5年生も可)のメンバーで構成し、7チームで8月21日、猛暑の中開催されました。そんな中で優勝を勝ち取るなんてすごいことです。暑い日差しにも負けず練習を重ねてきた成果です。



ながさき環境県民会議優良賞受賞

本校で行っている、ところてん作りや小・中・高一貫海浜清掃、

小値賀景観カレンダー、エコウォーキング等を含む環境学習の取組が「ながさき環境県民会議優良賞」に選ばれ、先日長崎で表彰を受けてきました。これは、もちろん学校の取組だけではなく、役場を始め様々な団体にご協力いただいている成果です。心より感謝します。

